

特殊研 F-127

聴覚障害乳幼児と保護者に対する最早期教育的支援プログラムの開発  
(課題番号 14510327)

平成 14 年度～平成 16 年度科学研究費補助金（基盤研究(C)(2)一般）研究成果報告書

平成 17 年 3 月



研究代表者 佐藤正幸  
(独立行政法人国立特殊教育総合研究所 教育支援研究部)

平成 14 年度～平成 16 年度科学研究費補助金（基盤研究(C)(2)一般）研究成果報告書  
聴覚障害乳幼児と保護者に対する最早期教育的支援プログラムの開発  
(課題番号 14510327)

目 次

|   |    |
|---|----|
| はしがき  | 1  |
| 研究組織  | 2  |
| 研究発表  | 3  |
| 第1章 聴覚的支援   | 5  |
| 第2章 時系列で追った事例検討   | 8  |
| 第3章 保護者の記録と聴力検査時の聴性行動との関係   | 30 |
| 第4章 最早期教育的支援プログラムの構築  | 38 |
| 資料1 Early Intervention for an Infant with a Hearing Impairment<br>-Support in the First Sixteen Months- | 51 |
| 資料2 補聴器とサウンドスケープ  | 58 |

はしがき

近年、医療及び工学的技術などの進歩により、生後間もない時期における聴覚障害の診断が可能になり、特に平成 12 年 10 月 1 日に「新生児聴覚検査実施要綱」（厚生省（現厚生労働省））が施行されてからは、聾学校の教育相談部に 1 歳未満の乳幼児の補聴器装用及び教育に関する相談が見受けられるようになってきた。

しかしながら、聴覚障害と診断された 1 歳未満の乳幼児に及び保護者に対する教育相談、教育的支援が確立されていないことが多い。

これは、1 歳未満の聴覚障害乳幼児における聴覚学的データ（例えば、音に対する聴性行動評価の指標（音に対する振り向き、驚愕反応など）、聴力の評価の指標、乳幼児の補聴器フィッティングデータ及びコミュニケーション行動評価の指標）が僅少であることによる。また、1 歳未満の聴覚障害乳幼児は、発達的な側面において聴覚における変動が著しく、このことも聴覚学的データの収集における困難さの原因となっている。さらには、このデータの不足から保護者に対する子どもの障害受容に関する支援も確立されていないこともみられる。

これまでの聴覚障害乳幼児の聴力レベルの分析は 2 歳～3 歳以上の幼児・児童を対象としているものが多く、2 歳未満、特に 1 歳未満の乳幼児については聴性脳幹反応という他覚的聴力検査のみであった。そのため、分析結果は正確でなく、補聴器のフィッティング（調製及び装用）及び聴覚障害乳幼児、その保護者に対する教育的支援に支障をきたすことが多かった。本研究では、

- 1) 1 歳未満の聴覚障害乳幼児に対する聴性行動、聴力レベルについて乳幼児の発達の状況に応じて分析することによって、より精度の高い聴性行動、聴力レベルのデータが得られること
- 2) 1 歳未満の聴覚障害乳幼児のコミュニケーション行動の特徴を発達の状況に応じて分析することによってより精度の高いコミュニケーション行動のデータが得られることが期待できる。

本研究では、1 歳未満の聴覚障害乳幼児を対象として、音に対する聴性行動、聴力レベル及びコミュニケーション行動に関するデータの収集を行い、1 歳未満の聴覚障害乳幼児における聴性行動の特徴、コミュニケーション行動の特徴を明らかにする。さらに聴覚障害乳幼児及び保護者に対する聴覚的支援、保護者支援、及び発達支援を中心とした最早期教育的支援プログラムの構築を行った。

## 研究組織

### 平成 14 年度

#### 研究代表者

佐藤 正幸 (独立行政法人国立特殊教育総合研究所 聴覚・言語障害教育研究部)

#### 研究分担者

宍戸 和成 (独立行政法人国立特殊教育総合研究所 聴覚・言語障害教育研究部)

小田 侯朗 (独立行政法人国立特殊教育総合研究所 聴覚・言語障害教育研究部)

小林 倫代 (独立行政法人国立特殊教育総合研究所 聴覚・言語障害教育研究部)

### 平成 15 年度

#### 研究代表者

佐藤 正幸 (独立行政法人国立特殊教育総合研究所 聴覚・言語障害教育研究部)

#### 研究分担者

宍戸 和成 (独立行政法人国立特殊教育総合研究所 聴覚・言語障害教育研究部)

小田 侯朗 (独立行政法人国立特殊教育総合研究所 聴覚・言語障害教育研究部)

小林 倫代 (独立行政法人国立特殊教育総合研究所 聴覚・言語障害教育研究部)

### 平成 16 年度

#### 研究代表者

佐藤 正幸 (独立行政法人国立特殊教育総合研究所 教育支援研究部)

#### 研究分担者

小田 侯朗 (独立行政法人国立特殊教育総合研究所 教育支援研究部)

小林 倫代 (独立行政法人国立特殊教育総合研究所 教育相談センター)

## 研究経費

平成 14 年度 1,600 千円

平成 15 年度 1,000 千円

平成 16 年度 7,00 千円

## 研究発表

### (1) 紀要・学会誌等

佐藤正幸：聴覚障害乳幼児に対する早期からのオーディオロジーサービス，独立行政法人国立特殊教育総合研究所 教育相談年報,第 23 号, 1-5,2002. (平成 14 年 6 月)

佐藤正幸・小林倫代・寺崎雅子：聴覚障害のある乳児及び保護者に対する早期からの聴覚的・発達の援助—1 歳未満の 1 事例を通じて—，独立行政法人国立特殊教育総合研究所 研究紀要,第 30 巻 37-50,2003. (平成 15 年 3 月)

佐藤正幸・小林倫代：聴覚障害児の早期からの相談に関する文献的考察，独立行政法人国立特殊教育総合研究所 研究紀要,第 31 巻,91-99,2004. (平成 16 年 3 月)

佐藤正幸：補聴器とサウンドスケープ Better Hearing Journal 27,1,2004 巻頭エッセイ (平成 16 年 3 月)

佐藤正幸：教育相談におけるオーディオロジー，独立行政法人国立特殊教育総合研究所 教育相談年報 第 25 号,1-4,2004. (平成 16 年 6 月)

佐藤正幸・小林倫代：聾学校乳幼児教育相談における早期支援，独立行政法人国立特殊教育総合研究所 研究紀要,第 32 巻 (印刷中) (平成 17 年 3 月予定)

### (2) 学会発表

佐藤正幸・小林倫代：乳幼児期における聴覚的支援と保護者支援—新生児聴検で聴覚障害と診断された 1 事例について— 第 36 回全日本聾教育研究大会,北海道小樽大会, (平成 14 年 9 月)

佐藤正幸：聴覚障害乳幼児の聴性行動反応に関する一考察—保護者の記録と聴力検査時の聴性行動との関係について—，日本特殊教育学会第 42 回大会,早稲田大学 (平成 16 年 9 月)  
Sato,M.D.S., Kobayashi,M. and Terasaki,M.: Early Intervention for an Infant with a Hearing Impairment: Support in the First Sixteen Months., A Sound Foundation Through Early Amplification International Conference, Chicago, USA (平成 16 年 11 月)